

日刊木材新聞

米国南部に大規模投資

インターフォー

5工場を全面改装、日本市場も開拓へ

カナダの製材大手であるインターフォーは米国南部への投資を拡大する。昨年11月に発表した6500万ドルの投資計画に続き、このほど第2弾となる2億4000万ドルの追加投資計画を発表。2021年までに総額3億500万ドル(1ドル112円換算で341億円)を投じ、米国南部の年間製材生産能力を4億2500万BF(70万立方尺)増やす。同地域の豊富な森林資源に着目。カナダの最先端の製材技術を持ち込み、拡大する米国及び世界の木材需要を取り込む。日本市場も開拓する。

インターフォーは米国に進出。15年までに国とカナダの関税問題、9工場を買収し、同地やカナダBC州の年間での足掛かりを築いて許容伐採量(AAC)のきた。米国南部の製材縮減などを見据え、2生産量は9工場合計で013年からサザン14億BF(230万立方エロパイン(SYP)と)と同社の製材生産の資源が豊富な米国南量の45%を占めるが、

いずれの工場もカナダの工場と比べると小規模で、近代化も遅れて



2期工事を予定するトーマストン工場(ジョージア州)

いずれの工場もカナダの工場と比べると小規模で、近代化も遅れてみにくいなか、拡大する需要に呼応し、事業を拡大するために、

米南部への集中投資が不可欠と判断した。具体的には、メルドリム(ジョージア州)、モンティチエロ(アーカンソー州)、トーマストン(ジョージア州)、イトントン(同)、ジョージタウン(サウスカロライナ州)の5工場を全面的に改装する。これにより、米国南部の製材生産能力は18億2500万BF(300万立方尺)と従来比30%拡大する。

SYPは資源量が豊富だけでなく、伐期が20〜30年と短く、再生産に適しており、今後の生産拡大が可能な産地として同社のほか、ウエストフレイザーやキャンフォール、トルコ、コニフェックスなどカナダの企業も多く進出している。

枠組壁工法構造用製材及び構造用たて継ぎ材としての基準強度は、SPFを上回り、特にめり込み強度は9・0N/平方メートルと針葉樹ではトップクラスにある。薬剤注入処理が容易なのも特徴で、北米では2×4製材、フロアリング、家具などに利用されている。

社はカナダの最新鋭工場を立ち上げた技術者20人前後を派遣して工場の近代化を図っており、これまでのイメージは払拭できると見ている。特に同社の場合、カナダ沿岸製材では50年以上の日本向け供給実績があり、日本市場が求める品質も熟知している。日本への航海日数は45日以上と西海岸に比べると長い。アジアからの空コンテナが多く、フレイトは高くないという。

「インターフォーは米国南部の製材生産でシェア45%を占め、ジョージア州では首位の立場にある。SYPでは主導的立場で日本をはじめ海外市場を開拓したい」(同社)。